

令和5年度

病害虫発生予察特殊報(第2号)

令和6年2月13日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：プリムラ類株枯病（仮称）
病原菌名：*Stagonosporopsis* sp.
作物名：プリムラ類

1 発生経過

- (1) 2022年9～10月に、県内の生産者から当所普及指導部を通じて、プリムラ類の下位葉葉柄や葉身の一部が褐変、株全体が萎凋、枯死する症状（図1）の診断依頼があった。褐変部や萎凋株の葉柄基部（地際部）には黒色の分生子殻が多数観察された。
- (2) 当所生産環境部において、分離糸状菌の接種試験、形態観察および遺伝子解析をした結果、病原菌を *Phoma* 様菌類（*Phoma*-like fungi）の一種である *Stagonosporopsis* sp. と同定した。

2 病徴および発生生態

- (1) 病徴は、地際部および下位葉葉柄や葉身の一部の褐変、株全体の萎凋、枯死である。
- (2) *Stagonosporopsis* 属菌には、種子伝染する種が報告されている。また、*Stagonosporopsis* 属が含まれる *Phoma* 様菌類では、水媒伝染や土壌伝染が報告されており、本属菌もその可能性が高い。罹病残渣上に分生子殻を形成し（図2）、伝染源となる。
- (3) 国内での *Stagonosporopsis* 属菌による病害は、カノコソウ葉枯病等で報告されている（利根川ら、2017）。本属菌によるプリムラ類の病害は、国内初発生である。

3 防除対策

- (1) 令和6年2月8日現在、プリムラ類株枯病（仮称）に対する登録農薬はない。
- (2) 種苗によって伝搬されるため、健全苗を導入する。
- (3) 病原菌の汚染のない清浄な用土を使用する。
- (4) 生育期は、分生子の飛散により感染が拡大すると考えられるため、発病株は培土とともにほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (5) 排水を良好にし、多湿にならないようにする。



図1 葉柄、地際部の褐変を伴う株の萎凋症状



図2 地際部（左）、葉（右）における黒色の分生子殻